

## 鶴岡叢書

つるがおかはちまんぐうしゃむしょ

作者: 鶴岡八幡宮社務所

成立: 昭和51年-平成3年(1976-1991)



## 解題

## Keyword

- 鶴岡八幡宮
- 「鶴岡社務記録」
- 大伴神主
- 「鶴岡八幡宮文書」
- 「相州文書」
- 「鶴岡八幡宮寺供僧次第」

鶴岡八幡宮関連の主要な史料を収録した叢書。鶴岡八幡宮の歴史、経営を知るための重要な史料集であるだけでなく、広く、政治史、仏教史、信仰史を研究する好史料となっている。

## ■ 成立経緯

本叢書は、鶴岡八幡宮が現在の地に創建されて800年の記念事業として企画・出版されたもので、第4輯まで刊行されている。昭和51年(1976)、第1輯として、鶴岡八幡宮の旧神主家である大伴氏の系譜を収録した「大伴神主家系譜集」が出版された。その後、第2輯「鶴岡社務記録」、3輯「鮮明鶴岡八幡宮古文書集」が順次刊行され、御鎮座八百年の式年である平成3年(1991)に第4輯「鶴岡八幡宮寺諸職次第」が完成、刊行された。

## ■ 鶴岡八幡宮

鶴岡八幡宮は、鎌倉市雪ノ下に鎮座し、祭神は応神天皇(おうじんてんのう)、比売神(ひめがみ)、神功皇后(じんぐうこうごう)で、旧国幣中社である。宇佐神宮(大分県宇佐市)、石清水(いわしみず)八幡宮(京都府八幡市)とともに全国の八幡宮を代表する大社である。明治の神仏分離までは鶴岡八幡新宮若宮(いまみやわかみや)・鶴岡八幡宮寺とも称した。康平6年(1063)8月、奥州前九年の役を鎮定した源頼義が戦勝を記念し、鎌倉郡由比郷に、石清水八幡宮を勧請して源氏の氏神として祀ったのが始まりである(現・鎌倉市材木座の元八幡宮)。治承4年(1180)10月、源頼朝が鎌倉に入ると、小林郷北山(現・下拝殿付近)に遷座し、現在の鶴岡八幡宮の基礎を築いた。簡素

な仮の建物であった社は漸次整備されたが、建久2年(1191)3月、町の大火に類焼し、諸社殿が焼失した。頼朝は直ちに再建に着手し、同年11月、背後の山の中腹に本宮(上宮)を造営し、改めて石清水八幡宮を勧請した。この時、若宮(下宮)も再建され、現在のような上下両宮となった。鎌倉幕府の儀式や行事なども同宮が中心となって行われ、年初には將軍自ら参詣するのを例とした。

同宮の祭祀をつかさどったのは、真言宗系の僧侶(供僧(ぐそう))たちで、のちに25名が任じられた。供僧の長にあたる鶴岡一山の最高責任者を別当と称し、初代の別当は園城寺の円暁であった。建久2年には、神式の行事を司祭する神主の職も置かれ、同宮は仏教色の濃い神仏習合の典型であった。初代の神主は大伴清元で、以来、大伴家は明治維新に至るまで神主職を継承した。別当・供僧・神主の他には、小別当、御殿司(ごでんす)、小宮神主、八乙女(やおとめ)、職掌(しきしょう)、承仕(しょうじ)などが置かれ、社事に奉仕した。

鎌倉幕府滅亡後は、室町幕府、鎌倉公方、小田原北条氏、江戸幕府も頼朝の尊崇に習い、社領の寄進、社殿の修造等に努めた。明治元年(1868)の神仏分離令に基づき、同宮でも明治3年5月までにはこれを断行し、ほぼ現在のような社容となった。現在の社殿は、本宮(上宮)・若宮(下宮)・下拝殿(舞殿)・社務所・直会殿(なおらいでん)、末社の式内社・丸山稻荷社・白幡神社・祖霊社・旗上弁財天社、境外末社の新(今)宮・由比若宮などから成っている。また、国宝の籬菊螺鈿蒔絵硯箱(まがきにきくらでんまきえすずりばこ)、重要文化財の木造弁財天坐像・『鶴岡社務記録』・『鶴岡八幡宮文書』など、多くの社宝を伝えている。

## 内 容

### 第1輯

鶴岡八幡宮の旧神主家である大伴氏の系譜4点が収録されている。鶴岡八幡宮は神仏習合で、実際には供僧が祭祀などの主導権を握っており、鎌倉期を通じて、『吾妻鏡』には大伴神主の歴代の名が記述されていない。鈴木棠三による本書の解題では、大伴氏の系譜について、「室町期以後、大伴神主の地位が相対的にたかまって、その家系についても扮飾を必要とする事情が生れたのであろうか。本書に収録する一群の大伴系譜を学問的史料として使用する場合には、留意を要する点であろう。」としているが、歴代の神主の事蹟等を知るのに貴重な記述を含んでいる。なお、4点の大伴系譜は、それぞれの特徴をもつが、いずれも大伴家によって作られたもので、その時の状況と必要によって繁簡その他の差が生じている。

### 第2輯

『鶴岡社務記録』は『鶴岡社務記』ともいい、鶴岡八幡宮に奉仕した代々の社務(別当)の記録である。建久2年(1191)3月から文和4年(1355)4月までの約160年間にわたる編年記録であるが、この内、首尾と46年間分の記事が欠いている。原本(重要文化財)は鶴岡八幡宮所蔵、甲乙2巻からなる卷子

装である。成立年代は未詳であるが、三浦勝男による本書の解題では、第19代社務頼仲が文和4年頃書写したのではないかとしている。内容は、鶴岡八幡宮の行事を中心に記しているが、鎌倉期の幕府政治や鎌倉の街の様子、南北朝動乱期の関東の動向等を含む貴重な史料である。本書は、鶴岡八幡宮所蔵本の影印版とその部分の翻刻を本文とし、併せて『鶴岡社務記録』に記載された以外の関連史料を年ごとにまとめて収録している。

第3輯には、鶴岡八幡宮及び同宮供僧坊の一つである相承院に伝わった文書、金子氏・神田孝平氏所蔵文書に含まれた同宮関係文書が収録されている。「影印篇」と「釈文・解説篇」の2分冊とし、「釈文・解説篇」には翻刻だけでなく、一通ごとに解説が付されているのが特長である。

### 第3輯

『鶴岡八幡宮文書』は、鶴岡八幡宮で所蔵する10巻132通の古文書である。このうち鎌倉時代の文書は20通あり、第1号・2号文書として収録している寿永2年(1183)2月27日付源頼朝寄進状2通が特に貴重である。この他、鎌倉御所(鎌倉公方)足利持氏の血書願文(79号文書)、足利尊氏や歴代の鎌倉御所の御教書(みぎょうしょ)、小田原北条氏・豊臣秀吉・徳川家康の文書などがあり、古文書として質・量ともに充実している。『相承院文書』とともに重要文化財に指定されている。

『相承院文書』は、鶴岡八幡宮の供僧二十五坊の一つ相承院(頓覚坊)に伝来した5巻93通の古文書である。相承院は、江戸時代には十二院家の一つとして多くの宝物を伝えていたが、明治3年(1870)の神仏分離の際に廃されたため、宝物類も失った。この文書も一時流出していたが、再び鶴岡八幡宮に戻った。鎌倉時代の文書23通を含む貴重な古文書で、供僧職の譲状と補任状がよく残っているのが特色である。

『金子文書』は、もと鶴岡八幡宮の社人・金子家に伝わった八幡宮の相撲職に関する5通の古文書である。本文書は、「旧鶴岡八幡宮社人 金子家文書」として、江戸時代に編纂された「相州文書」に収録されており、また、明治23年(1890)実施の臨時全国宝物取調局が実施した調査の鑑査状には「神奈川県下 金子亮郎所蔵」と記されており、所在が明確であった。しかし、その後、散逸したようで、昭和19年(1944)刊の『新編相州古文書』(#37)や昭和33年刊の『鎌倉市史 史料編第1』などに収録されている『金子文書』は、東京大学史料編纂所所蔵の「相州文書」の影写本をもとに翻刻している。現在、原本は神奈川県立歴史博物館で所蔵している。本文書は、鶴岡八幡宮の相撲職の組織や役割を知る上で貴重なだけでなく、日本相撲史を研究する上でも有意義な史料である。

『神田孝平氏所蔵文書』は、神田孝平旧蔵の4巻45通の文書である。この中から、鶴岡八幡宮旧蔵と考えられる21通を本書に収録している。神田孝平はもと幕臣で、蘭学を学び、蕃書調所、開成所に勤め、明治維新後は兵庫県令、元老院議員、貴族院議員などを歴任し、また学士院会員にもなった学者である。これらの文書は神田孝平が収集したものであるが、そのほとんどが

神仏分離の際に各社寺から流出したものであろうと考えられている。昭和37年(1962)、当時の鎌倉市図書館長・沢寿郎が、偶然鎌倉市内の古物商の店頭でこれらの文書を発見し、鎌倉市が購入、現在、鎌倉国宝館で所蔵している。

#### 第4輯

鶴岡八幡宮蔵所蔵の『鶴岡八幡宮寺諸職次第』の影印版とその部分の翻刻を本文としている。『鶴岡八幡宮寺諸職次第』には、鶴岡八幡宮寺二十五坊の供僧職補任の記録である『鶴岡八幡宮寺供僧次第』を中心に、八幡宮寺の諸職の補任記録が収録されている。本書では、参考として、応永6年(1399)書写の奥書がある東京大学史料編纂所蔵の『鶴岡八幡宮寺供僧次第』(鶴岡本の写本)の翻刻も収録し、主な関連史料をまとめた「参考史料」、巻末に主要な人名と件名の索引を付している。本書は、鶴岡八幡宮寺経営の中心であった供僧の動向を知る重要な史料であると同時に、中世の同宮を研究するのに不可欠な記録である。

第4輯の中心となっている『鶴岡八幡宮寺供僧次第』の成立は室町時代中期頃と考えられている。内容は、二十五坊の各坊ごとに院名・所在・料所・法務などを書きあげ、その坊に所属する供僧の名を補任順に記し、その法流・履歴・事績等を列記している。この中には、宗教史・一般史の重要な記事も含まれており貴重である。



## 構成

### 第1輯「大伴神主家系譜集」

鶴岡八幡宮神主大伴家系譜 附 大伴清綱・清胤・清胥系図(影印)

鎌倉鶴岡神主大伴氏家譜(内閣文庫蔵)(影印)

諸家系図纂 大伴神主家譜(内閣文庫蔵)(影印)

一社明細書上 神主大伴家系(鶴岡八幡宮蔵)(影印)

解題(鈴木棠三著)、「大伴神主の旧居など」(沢寿郎著)、世代索引

### 第2輯「鶴岡社務記録」

鶴岡社務記録(鶴岡八幡宮蔵)(影印・翻刻)

参考、解題(三浦勝男著)

### 第3輯

「鮮明 鶴岡八幡宮古文書集 影印篇」

鶴岡八幡宮文書、相承院文書、金子文書、神田孝平氏所蔵文書(影印)

「鮮明 鶴岡八幡宮古文書集 釈文・解説篇」

鶴岡八幡宮文書、相承院文書、金子文書、神田孝平氏所蔵文書(翻刻)

解題

### 第4輯「鶴岡八幡宮寺諸職次第」

鶴岡八幡宮寺諸職次第(影印・翻刻)

鶴岡八幡宮寺社務次第、八幡宮御影廻次第、鶴岡八幡宮寺供僧次第、八幡宮御殿司職次第、御殿司職一方、八幡宮執行職次第、社家執事職次第、八幡宮学頭職次第、八幡宮両界壇所供僧職二口、両界壇所供僧一方、両界供僧一方、鶴岡脇堂供僧十一口、神宮寺二口、神宮寺一口、千体堂二口、千体堂一方、金銅薬師供僧一口、金銅薬師供僧一口、尊勝仏一口、七仏薬師供僧一口、五大堂一口、琰魔天一口、北斗堂一口、当社小別当職  
 鶴岡八幡宮寺供僧次第（東大史料編纂所本）（翻刻）  
 参考史料、解題（三浦勝男著）、索引（主要人名・件名）  
 二十五坊初代供僧の法流・出自・補任・住山等一覧



## 史料本文を読む

- 『鶴岡叢書』 第1輯「大伴神主家系譜集」鈴木棠三編 鶴岡八幡宮社務所 1976 [K17.4/21/1]（索引あり）
- 『鶴岡叢書』 第2輯「鶴岡社務記録」貫達人・三浦勝男編 鶴岡八幡宮社務所 1978 [K17.4/21/2]
- 『鶴岡叢書』 第3輯(2分冊)  
 「鮮明鶴岡八幡宮古文書集 影印篇」貫達人・三浦勝男編 鶴岡八幡宮社務所 1980 [K17.4/21/3-1]  
 「鮮明鶴岡八幡宮古文書集 釈文・解説篇」貫達人・三浦勝男編 鶴岡八幡宮社務所 1980 [K17.4/21/3-2]
- 『鶴岡叢書』 第4輯「鶴岡八幡宮寺諸職次第」貫達人・三浦勝男編 鶴岡八幡宮社務所 1991 [K17.4/21/4]（索引あり）



## 史料についてさらに知る－参考文献－

### <鶴岡八幡宮について>

- 『八幡宮の研究』宮地直一著 宮地直一先生遺著刊行会編 理想社 1956（遺稿集2）[175.9/4]
- ◆ 佐脇采智「鶴岡八幡宮」（『鎌倉市史 社寺編』鎌倉市史編纂委員会編 吉川弘文館 1959 [K21.4/4B/2]）
- 『八幡信仰史の研究』中野幡能著 吉川弘文館 1967 [170.2/11]
- 『鶴岡八幡宮』貫達人著 中央公論美術出版 1976（美術文化シリーズ104）[K17.4/20/a]
- ◆ 「鶴岡八幡宮」（『神奈川県神社誌』神奈川県神社庁 1981 [K17/25]）[K291/617]
- 『鶴岡八幡宮：御鎮座八百年』鶴岡八幡宮 1991 [K17.4/52]
- ◆ 白井永二「鶴岡八幡宮」（『鎌倉事典（新装普及版）』白井永二編 東京堂出版 1992 [K20.4/3A]）
- 『鶴岡八幡宮年表』鶴岡八幡宮 1996 [K17.4/51]

- 『鶴岡八幡宮寺：鎌倉の廃寺』貫達人著 有隣堂 1996 [K17.4/53]

<内容について>

第1輯

- ◆「『鶴岡八幡宮神主大伴系譜』解題」(『神道大系 神社編20 鶴岡』神道大系編纂会 1979 [K17/31/20])
- ◆永井晋「鶴岡八幡宮大伴神主系図に見える院政期の伴氏について」(『金沢文庫研究』(285)神奈川県立金沢文庫 1990 [K05.17/1/281-286])
- ◆篠原幸久「鶴岡八幡宮大伴氏の神主職と出自」(『鎌倉』(95)鎌倉文化研究会 2002 [K05.4/4/95])

第2輯

- ◆「『鶴岡社務記録』解題」(『統史料大成18』臨川書店 1967 [210.08/87/18])
- ◆「『鶴岡社務記録』解題」(『神道大系 神社編20 鶴岡』神道大系編纂会 1979 [K17/31/20])

第3輯

- ◆貫達人「鶴岡八幡宮文書 附相承院文書」(『神奈川県文化財調査報告』(28)神奈川県教育委員会 1964 [K06/1/28])
  - ◆沢寿郎「鎌倉市図書館蔵『鎌倉古文書』について」(『金沢文庫研究』(104)神奈川県立金沢文庫 1964 [K05.17/1/5])
  - ◆八幡義信「鶴岡八幡宮相撲職関連文書について」(『神奈川県立博物館研究報告:考古・歴史・美術・民俗』(5)神奈川県立博物館 1972 [K06/20/1-5])
  - ◆「神田孝平旧蔵鎌倉関係古文書」(『鎌倉の文化財4』鎌倉市教育委員会 1974 [K06.4/7/4])
  - ◆相田二郎「相模国の古文書について 付1 鶴岡八幡宮文書」(『古文書と郷史研究』名著出版 1978 (相田二郎著作集3) [K08.7/1/3])
  - ◆『中世の鎌倉：鶴岡八幡宮の研究』湯山学 1993 (南関東中世史論集3) [K24.4/121]
- ※「鶴岡八幡宮文書考」(『郷土神奈川』(12)神奈川県立図書館・文化資料館 1982)、「統鶴岡八幡宮文書考(1)(2)(3)」(『政治経済史学』(224)(225)(226)日本政治経済史学研究所 1985)他、湯山氏の鶴岡八幡宮文書に関する論文を収録